

story

わたし物語

等身大ふじ子像を制作

岡崎城西高等学校美術部

◆おかざきじょうせいこうとうがっこうびじゅつぶ



4月12日、岡崎城西高等学校美術部から岡崎市へ等身大ふじ子像を寄附していただきました。元々は令和6年度の文化祭の展示物として段ボールで制作した作品でしたが「学校以外の場所でも展示をして岡崎市のPRをしたい」という思いから分解して持ち運べるように繊維強化プラスチックで作り替えることに。そんなさなかにふじ子が亡くなり、岡崎市へ寄附をしていただくことが決まりました。

「大きな作品を作って文化祭で目立ちたい!」と始まった城西高等学校美術部名物の巨大造形。“岡崎ならではの大きなもの”から連想され、ふじ子が題材になりました。30人を超える部員全員が共通して大切にすることは「ふじ子らしさを表現すること」だったそう。「巨大造形はチーム戦です。個々が良いものを作っても一体感が無ければ成立しません。肌のしわひとつを紙で表現するにも、実際のふじ子をくまなく観察したり写真や資料をみんなで共有したり



して、別の部員が作ったものとのつなぎ合わせても違和感がないよう細部までこだわりました」と話します。ふじ子に寄り添い制作に打ち込んだ期間は約2年間。愛らしい瞳、しわがよった皮膚の質感、砂浴びが好きだったふじ子らしく砂がかかった背中、まるで本物のように再現されています。「ようやく完成した安心感でいっぱいでした。また、家族やクラスメイトから『ふじ子像を見に行った』とか『ふじ子のことをもっと知りたくなった』と声をかけてもらい、目標としていた岡崎市のPRにつながった気がして本当にうれしい」と達成感に満ちあふれます。

ふじ子像制作時には後輩だった部員は学年が上がって最年長として部を引っ張っていく存在になっています。「これまで先輩たちからたくさんのアドバイスや指示をいただけたことが私たちの支えになっていると実感した」と話します。また「先輩たちの姿を見習い、後輩たちを支え、新しい制作を成功させたい」と頼もしい姿もみせます。ふじ子像制作の経験は部員を大きく成長させ、今後の制作の糧となっていくことでしょう。